

令和7年度 第1回清水町総合計画審議会 会議録

日時 令和7年5月29日 18時00分～19時45分
場所 清水町役場2階 庁議室

- 【出席者】五十嵐卓、長谷川弘、今野典幸、高充慶、矢萩利浩、川村智洋、
笹原恵介、徳田貴士、梶貴博、横山麻悠美
【欠席者】中村暁子、鈴木愛
【アドバイザー】十勝総合振興局地域創生部地域政策課 菅原主事（代理出席）
【オブザーバー】株式会社K I T A B A酒本代表、関場氏、大川氏
【事務局】鈴木課長、佐藤補佐、青砥係長、大和田主査、有田主事

1. 開会【進行：鈴木課長】

2. 町長挨拶

清水町総合計画審議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日の審議会の開催にあたりましては、委員のみなさま、また、アドバイザーとして十勝総合振興局地域創生部地域政策課長「石山」様、総合計画（後期基本計画）策定にあたっての策定支援業務を担っていただく「株式会社K I T A B Aの皆様」には、ご多用の中ご出席いただきましたことに、お礼を申し上げます。

今年度は、令和3年度に策定しました、10年の基本構想からなる本町の総合計画も折り返しを迎え、前期基本計画の実施評価を踏まえ、現状にあった見直しを行った上で、後期基本計画を策定する年となっております。

これよりご審議いただく「人口ビジョン・総合戦略」の実施評価や「第6期清水町総合計画前期実施評価」につきましては、総合計画で示す町民の皆様・議会・行政が共に知恵を出し合い創りあげた「清水町の将来像」の実現に向け、とても重要な計画だと認識しております。

計画内で定めております具体的な施策につきましては、農業・商工業・福祉・子育て支援など、幅広い分野の事業評価の検証となりますが、皆様が日頃から感じている率直なご意見を頂戴したく、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

3. 委員及びアドバイザー紹介

4. 総合計画策定支援業務受託事業者紹介【株式会社K I T A B A】

5. 事務局紹介

6. 会長挨拶【五十嵐会長より】

本日はお忙しい中、清水町総合計画審議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

昨年度に引き続き会長を務めさせていただきます、御影郵便局の五十嵐です。今年度もよろしくお願いいたします。

今、町長からも様々な思いを聞かせていただきましたが、今年度は先ほどから話題にもでております、総合計画の後期基本計画策定の年ということもありますので、皆さんの活発な意見をいただき本日の審議会を円滑に進めて参りたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

7. 諮問

8. 協議事項【青砥係長より一括説明】

(1) 清水町人口ビジョン・総合戦略における令和6年度実施事業評価について

①令和6年度人口動態について

②令和6年度実施事業評価検証について

(2) 第6期清水町総合計画前期実施評価について

(3) 清水町過疎地域持続的発展市町村計画の変更について

【梶貴博】

根本的な話ですが、清水町人口ビジョンの総合戦略において、冒頭に順調、見直しが必要、廃止の3つに分けてそれぞれ評価された中で、順調が58、見直しが22、廃止が3というような内訳の報告を受けております。過半数以上が順調で推移しているということであれば、ものすごく今後人口が増えていくような町に見受けられるんですが、ただ、各種中身の評価のところにおいて順調とか、それぞれの項目と書いてあるんですけども、評価理由もいろいろ書いてあるんですけども、そのあたりきちとしたエビデンスを取った上での検証結果を出しているのかという部分を教えていただければと思います。

【鈴木課長】

人口ビジョン総合戦略の評価につきましては、令和7年度の目標値に対する実績値を現段階で評価をさせていただいております。

数値的な目標に対する評価ということで、過半数以上が順調という結果になっておりますけども。この点につきましてはですね、この目標値が本当に適切だったのかっていうことは、再検証が必要ではないかというふうに思っております。現状にあった目標値への変更も踏まえ、後期基本計画を考えていきたい。

人口ビジョン総合戦略についても、今第二期ですけども、今年度に第三期のビジョンを作ることになってございますので、そのビジョンの策定においてはそういう点を、きちっと整理しながら、将来目標、人口減少を食い止めるっていうのが最大のこのビジョンの目的になりますので、それに通じる施策というものを考えていきたいと思っている。

【梶貴博】

目標値の設定の部分に関しては、再度検証していただいて、もちろん達成できている部分も多くあると思うけれども、やはり物足りない部分であったり、今後さらなる目標値を高く取っていただくことで、この町がよりよい街に変化していくのかなと思っております。

ので、そのあたりの検証もしっかりやっていただければと思っております。
総合計画に関しましては、10年計画で実施されておりました、今5年目を迎えるところだ
というふうに聞いております。この5年間で大きくこの町がより良くなっているようには
あまり個人的には見受けられないんですけども、この会自体が開催されても5年以上経っ
ていく中で良くなってきている点などがあれば教えていただければと思います。

【鈴木課長】

この5年間ですね、本当にいろんな社会的にはいろいろな状況がありました。コロナに
始まりまして、今の物価高ですとか、いろんな状況変化に計画自体が追いついていないと
ころもあるのかなというふうには思っております。ただ、いろいろな施策を実施すること
で、社会増減は他町村よりは少ない状況が確保されているのかなというふうに思ってお
ります。そういう意味ではまだまだ清水町というものは伸びしろがあるというふうに思っ
ているところです。

【梶貴博】

今、鈴木課長の方からもお話いただいた通り、なかなかすぐにどうにかなる話でもない
ですし、長期的なビジョンをとおし、町としてどう進めていくのかというところなのかな
というふうに私も思っております。
この人口減少という部分に関しましては、清水町だけの問題ではないと思うんですよね。
これは十勝管内も含めて、全国的な話だと思います。そういった中で、国内の人口も減っ
ていく中で、各市町村が人口減少を食い止めていくのはなかなか難しい。少しでも減り幅
を減らしていくという部分にもう少し重きを持ちながら今後進めていければ、また違った
角度で施策ができるのかなというふうに思っております。

【徳田貴士】

まちづくりアンケートの結果を見たが、確かにその通りだなと思う。もし自分が清水町
民でなければ、現時点で清水町に来ることはないと思う。保育所はとて素晴らしいところであ
りがたいんですけど、自分たちが生活することを考えたら、転出先として多い帯広とか芽
室とか音更とかもそうですけど、そういうところに魅力を感じてしまう。だから、スーパー
を誘致するとかっていうのは現実的には難しいと思うんですけど、ただ率直な若い意見と
してはそのような意見が多くなると思う。そのようなことは踏まえて、今後、商工会青年
部としてどのように地域の商業を活性化させていくか、行政と一緒に考えていきたいと思
う。

【鈴木課長】

今ご意見いただいた通りかと思えます。このアンケート結果を真摯に受けとめて、今後
どう町が取り組むかっていうことも、大切ですし、各世代のですね、意見というものもこ
れから本当にどう汲み取っていくかってことが大切になってくると思いますので、ありが
たいご意見として承って参りたいと思います。

【笹原恵介】

自分のよく知っている他町村と比較し、清水町に足りないものは公共交通などのインフ
ラ設備だと思う。新規就農者も最近は全くいないとの話であったが、農業をやっていない人
がいきなり農業の地域に入って1から全部できるかってなると、難しいと思うんですよね。

知識があったとしても実際やるのは全然違うと思うんで、何かそこら辺、例えば離農した方がフォローして、初めて入る人が新規就農しやすいような環境を整えとか、離農者から研修を行ってもらなど、今までよりも充実したサービスを検討したほうがいいのかなというふうに思います。

【鈴木課長】

農業は、町の基幹産業ですので、今後力をいれて進めてまいります。将来的にも、まだまだ離農者は出てくるという予想もされてございます。農業というものをどう承継していくかの課題もありますので、今おっしゃる通り、研修の場もやはり農業には必要になってきますので、新得のファームスクールではないですけども、そういう研修体制をどう作っていくかがこれからの課題かなと思っております。まだまだ町内には拡大意欲が強いところもございますので、就業先をいかに確保するかってことも課題ではあるんですけども、農協様と相談しながら、進めていきたいというふうに思います。

【川村智洋】

清水町人口ビジョン総合戦略の中で婚姻数ということで、令和6年度は20組ということで記載があったんですが、帯信キューピット利用されて結婚された方っていうのは実際にいるのか。

【鈴木課長】

一定の要件を満たし退会された方はいるが、成婚までいった話はまだ聞こえてきていない。

【川村智洋】

この帯信キューピッド自体は2017年に、始めた取り組みで、今ちょうど9年目を迎え、十勝管内19市町村と連携し、実績としては51組の成婚退会となっている。帯広信用金庫としても、将来的な後継者であったり、将来的な生産年齢人口の創出ということでやっているんですが、まだまだちょっとPRも足りないと思っていますので、こういったかたちでなかなか周知活動が進んでないようであれば、我々の方でも最大協力したいと思います。

【矢萩利浩】

皆さんから総合計画後期計画を作っていくにあたって、いくつかトピックスがあったかなと思っています。1つは清水町に住みたいかというところのお話があったと思うんですけども、個人的には職があれば、魅力的な町であるなというふうに思っている部分があって、その町の魅力を感じたからこそ、勤務地は帯広になりましたが、町民として残っています。清水に住みたいかっていう観点を、もう少し掘り下げて、考える必要があるのかなというふうに感じています。もう1つはやはり職がないとならないというところもあります。こないだの新聞記事にもあった通り、北海道の人口も500万人を超えました。外国人が多くいらっしゃるんで、総人口としては、今500万人を維持しているというような状況はご存じの通りです。翻って清水町でいきますと、最新ではないんですが、これは道庁さんの調べで、23年10月末ですけども。清水町の外国人は当時266人ということでした。外国の方をいかに来ていただいて、人口減少を抑えていくかっていう施策も考えていかねばならないのかなというふうに思う。それが先ほどの人口ビジョンでありました、合計者の紹介人数であったり、女性との交流会参加人数というものもあると思うんですけど

ども、例えば、外国人の方々との交流会として、うまくいけば、国籍が日本ということになり、日本人、ひいては清水町民として定住定着するかもしれないという可能性があるかなと。さらに、住宅の部分についても、この移住促進の部分例えば外国の方等々に転用できないか、というようなこともまた考えていく必要があるのかなと。

これは前回、農協の組合長からもお話あった通り、外国人に対する住宅の手当等、何かできることはないか、少しそういった点もクローズアップしていく必要があるのではないかなというふうに考えております。

【鈴木課長】

外国人については、技能実習生が大半を占めているってところもありますので、よく入れ替わるということもあるんですけども、その人達をどう定着させるかっていう点とあとその人たちのコミュニティをどう確保していくかという課題がございます。外国人が住んでいることによる周りの方々の、ハレーションもあるので、それをどうクリアしていくかっていうのも大切になりますし、どう外国人の方が町内に馴染めるようにしていくかっていうのも、これからの課題だと思っていますので、国際化は、これからもっと目を向けていくべき分野になってきているなという認識を持っておりますので、その部分を、これから検討していきたい。

【高充慶】

今年初めて参加して勉強しているような状態ですけど、清水町人口ビジョン総合戦略の生涯学習ボランティア事業というのは、地域の方に本当に助けていただいて、書写ボランティアなど、直に指導の手伝いをさせていただく場面もあり、非常に助かっているなというふうに思っております。ただ、現状、順調と書かれているんですが、今後さらに5年っていうところを考えたときには、かなり苦しい現状が見えています。最近はお年配の方も働かなきゃなくなっており、ボランティアに来るのにお休みをしてくれています。これからのいろんな人が手伝いをできるということを考えたときには、有償ボランティアというような形を考えていかないと、この先大変だと思う。今現在は順調なんですけど、この先5年間っていうところを考えたときには、ちょっとどこかで、そういった視点も持っていないと、お手伝いの人がいなくなっていくかなというふうに思っています。保育園留学が大変好調と聞いているが、小学校での学生受け入れも対応可能である。しっかりとしたガイドラインを定めての運用が必要ではあるが小学校の体験入学もうまく使いながら、関係人口の創出や移住定住につなげていければいいと思う。あともう1つ、空き家や通学路の整備など子どもが安心して学校に通える体制について、細かい部分の配慮も町に願いたい。

【鈴木課長】

貴重なご意見ありがとうございます。今後の参考とさせていただければと思います。先ほどの有償ボランティアの件は、部活動とかスポーツ活動の指導も含めて、今後は重要な点になってくるかと思います。現在中学校の部活動の2つの地域移行の関係で、モデル的なことを始めておりますけれども、それも含めて文化スポーツ活動の指導なり、補助というものに対する有償というものが、今後必要かと思っていますので、少しずつ検討を進めさせていただきたいと思います。空き家の問題も本年度、出来る範囲ではなりますが状況を調査する予定にしております。その調整状況を踏まえてですね、どう対策をとるかというものを、町長公約の空き家を活用した戸建政策というのも含め検討中でありま

す。今年度はいろいろと状況を調査した上で、新年度に向けた取り組みっていうものを考えていきたいというふうに思っているのが現状でございますので、いろいろ、他にご意見もあるかと思しますので、ご意見いただければと思います。

【横山麻悠美】

御影地区について、空き家とか空き店舗はあるが、何かやりたいっていうときにできる場所がないってのが現状で、子供たちを集めて何かするとか、みんなでワイワイするっていうときも、なかなか場所がない。空き店舗を活用して子どもの居場所をつくるような取り組みに町からの補助などがあればいいと思う。

【鈴木課長】

空き店舗の有効活用というのは、常にいろいろ言われているところでございますので、今、商工会様ともその辺は相談させていただいているところであります。何せそこにお住まいになっている方もいらっしゃるという状況もありますので、その方々とも相談しながら、有効活用できないか、またそういう形でのチャレンジショップではないですけども、いろいろやってみたいっていう方がいらっしゃるっていうのも現実でありますので、どう対応できるのか考えていければなというふうに思っております。貴重なご意見として承りたいと思います。

【今野典幸】

私もこの会議２回目ということで、以前ちょっと住むところということで提案させていただいたこともありますが、うちの職場も、若い職員が、結婚したら帯広の方に引っ越ししてしまう。就職募集しても、やはり同じJAで同じ賃金であっても、帯広に近い方に就職がいつしてしまう。その中で清水は住みづらいのかなとも思ったが、病院もあれば学校も充実しているし、別に何も、不満がないのかなと思うところです。自分なりの意見なんですけども、飲食店が少ないのかなと。私のところにも遠方からお客さんに来てもらって、地元で昼の美味しいものを食べていただきたいけど、なかなかない。それに伴って、泊まってもらえれば一番いいんですけど、結局泊まる場所もないので、帯広まで送っていかなくちゃいけない。そうすると不利なところがあるのかなと。人口をどうにか清水に集中させれば、そういう産業も成り立つということで、この会があるのかなと思うところです。町長と以前話した中で、本通りとかの空き店舗にもし本州などから地元のものを使って料理だとか、そういうのをやってみたいって人がいれば、町の方でそういう何か場所を提供できるとかがあれば、そういう話題の中から清水の方へ行けば、地元のおいしいものが食べれるよとなり、どんどん町が活性化していくのではないかと。できれば、昔から言っているんですけど、駅の利用に際し、跨線橋の上り降りがあまりにも大変である。あれを経験しただけでもう利用しなくなる。もしかしたら新得で降りて、タクシーのほうが早いんじゃないのかなとか。そういう面から見るとやはり無理かもしれないですけど両側、何とかエレベーターを設置し、お年寄りでも、JR使える形を考えていく必要がある。もし清水町に所帯を持って子育てする人の支援をしてくれるのであれば、空き家を有効活用し、家をもう提供するぐらい思い切った発想がないと、なかなかその人口というのは増えていかないのかなと思います。その中で基幹産業である私達の農業と皆さんの方で頑張っこれからできる作物に対しての、企業誘致を大胆な発想で行えないか。倉庫が建てば働く人が増えるだとか、そういう大胆な発想も含め今後検討してほしい。

【鈴木課長】

JR に関しましては、JR 側との協議も必要になってくるので、難しい点はありますけれども常日頃、要請活動をしているところでございます。エレベーターをつけるにしても、高額な費用がかかるので、補助制度も国に要望しているところでございます。今後につきましても関係機関に要請活動を続けていきたいというふうに思っております。その他いろいろチャレンジについては、空き店舗への誘致ですとか、子育ての政策ですとかは新しい町長の公約にも入っているところでございますので、関係機関等とも検討し、今年度は構想段階ではありますけれども、新年度に向けてどのような形にできるか、頑張っていきたいなというふうに思っております。

【長谷川弘】

人口動態について、詳細まで分析してありとても分かりやすいが、例えば十勝管内の他町村と社会増減等が比較できる表があるとなお清水町の現状を把握しやすい。あと、清水町は福祉や子育て支援、また移住定住の助成金などに関してトップクラスのことをやっていると思うが、全体的に横の繋がりを持って取り組み全体像が見えやすいようにしたらいいと思う。PR の仕方を考えてやっていってくれたら、清水町がどれだけ他の町よりも、いろんなことに対して、支援しているかがより伝わりやすいと思う。あと、外国人の移住者が多い印象だが、生活環境や農業者の外国人労働者も増えており、家畜伝染病のことなども考慮し、外国人の移住定住、関係人口の増加も考えていかなきゃならないんじゃないかなと思います。あとは、空き家対策や駅前再開発についても総合的な視点で検討していく必要があると思います。

【鈴木課長】

人口に関する資料につきましてはご意見賜った中で、整理できるものは整理してまいります。空き家ですとか、外国人の農業従事者の関係、いろいろ難しいこともありますけれども、清水町は農業の町ですので、農業というものを中心にやっていかなきゃならないと思っておりますので、それぞれ関係機関等とですね、相談しながら進めていきたいと思っております。

【十勝総合振興局地域政策課 菅原主事】

この場に呼んでいただきありがとうございます。私自身も、皆様の意見などついてとても勉強になったというのが一番でして、振興局といたしましても、皆さんと一緒に何かサポートできることとかがあれば、行わせていただくので今後もよろしくお願いします。

9. その他

【青砥係長より今年度の総合計画審議会の開催日程について説明】

10. 閉会